

新どさんこレポート vol.07

テーマ：北海道民の旅行・交通に関する意識

道民は、気軽な道内のショートトリップ好き。
北海道新幹線や空港民営化については様子見で、
道内よりも道外からの期待が高い。

北海道博報堂「新どさんこ研究所」（新ど研）では、生活者を取り巻く環境の変化にともない、道民意識や行動も変わっていくという仮説のもと、「一步先の道民＝新どさんこ」の姿を生活者データの分析や未来予測から提言していきます。

🔍 今回は、道民の旅行・交通インフラをテーマとしました。

道民の旅行意識や行動はどうなっているのかを分析します。北海道新幹線が開業して1年半。

開業効果も落ち着く中で、今後の期待度はどうなっているのでしょうか。さらに、2020年に向けて空港民営化も準備に入っていますが、道民がどのように捉えているのかを考えます。

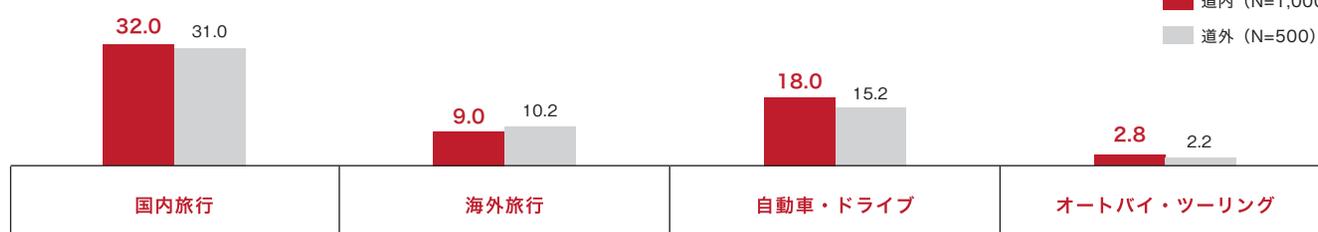
データのご紹介

① 国内旅行などよくする趣味について

Q. あなたがよくする趣味・スポーツをお知らせ下さい。(複数選択)

新どさんこ
リサーチ
2016

■ 道内 (N=1,000)
■ 道外 (N=500)

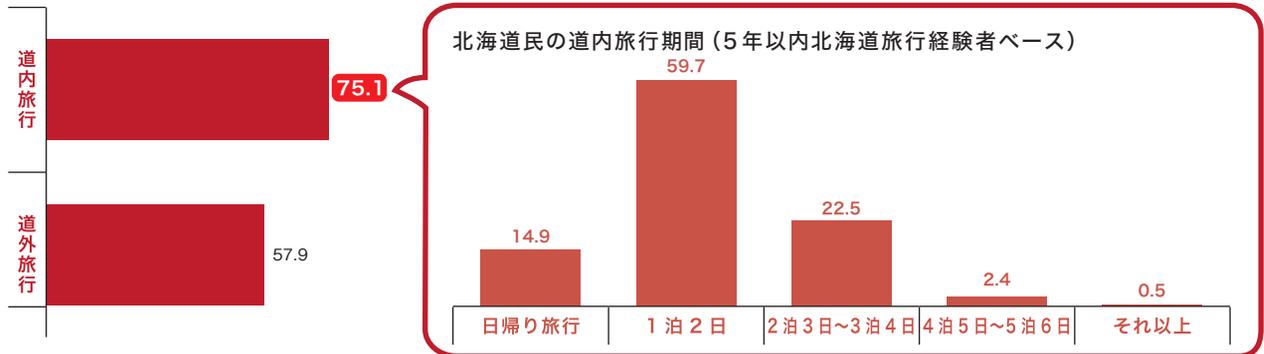


国内旅行は道民が僅かに高く、海外旅行は道外で若干高くなっています。自動車・ドライブも道内が高い傾向。

② 国内旅行と海外旅行経験

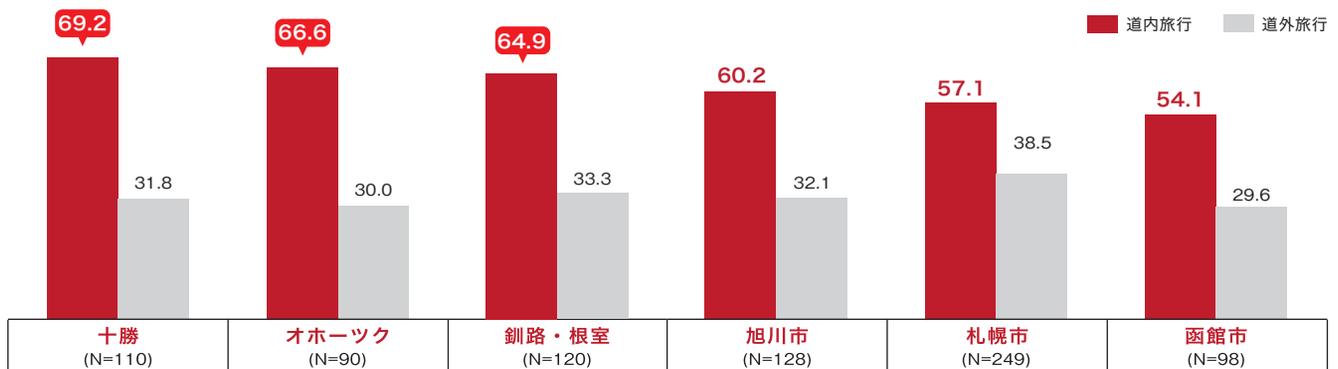
Q. あなたは最近5年間、どのくらいの頻度で旅行に行きましたか。

新じさんリサーチ
2016
道内 (N=751)



道内旅行者は、道外旅行者に比べて17.2ポイント高い結果となっています。道内旅行者の旅行期間をみると、6割は1泊2日。日帰り旅行も15%と、気軽なショートトリップが多い傾向。

道内エリア別の旅行傾向



道内旅行については十勝が約7割と高く、ついでオホーツク、釧路・根室と地方が多い傾向。札幌は道内旅行は6割弱だが、道外旅行は6エリアの中で最も多く、38.5%。

参考 日帰り旅行にかかる旅行単価（年間平均：円）

出典：国土交通省 観光庁 旅行・観光消費動向調査 2015年1~12月期（確報）

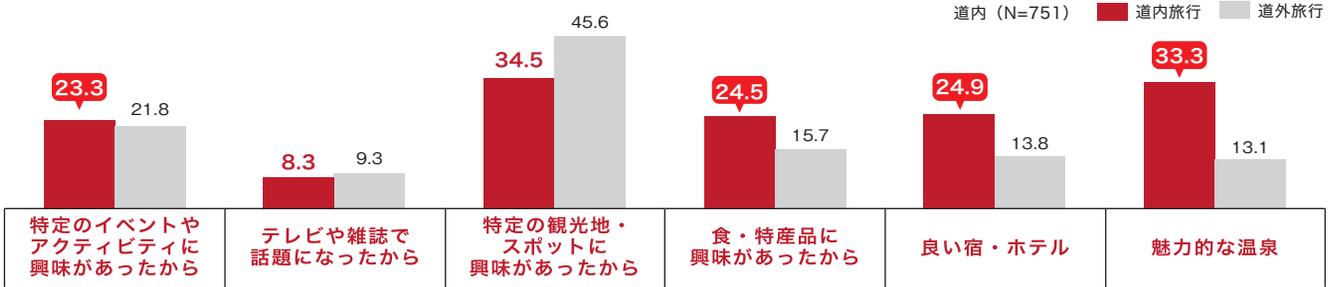
日帰り旅行単価（円/人回）



北海道では年間を通じた北海道での日帰り旅行1回にかかる平均費用が沖縄について安く、11,280円。交通費などのコストを抑えて楽しむ様子が伺えます。

3 過去5年間の旅行の目的比較（道内旅行と道外旅行）

Q. 最近5年間の旅行について、行った理由、目的を次の中からすべて教えてください。

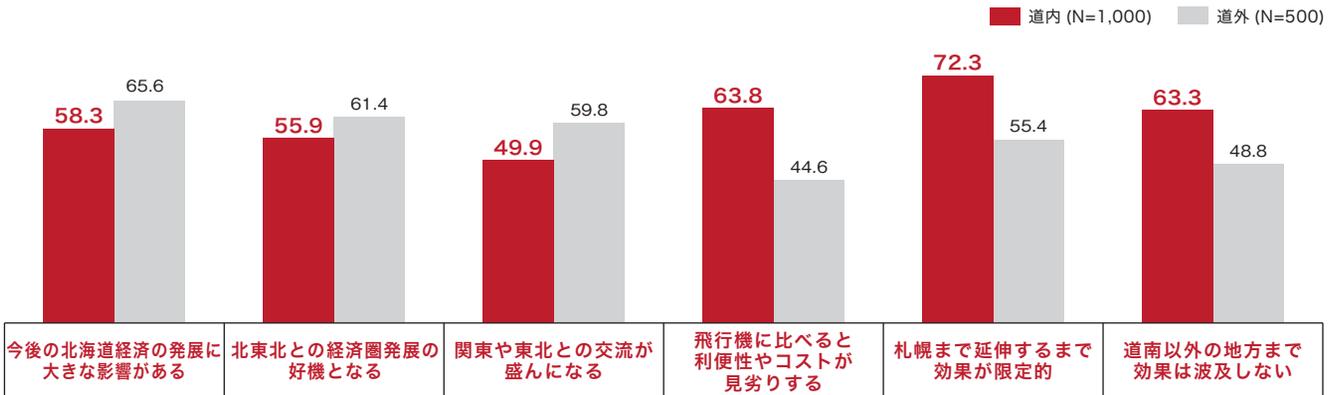


道内旅行の目的としては、特に高いのが「魅力的な温泉」で、道外旅行の目的よりも20ポイント高い。続いて「良い宿・ホテル」、「食・特産品に興味があったから」も10ポイント高い。加えて、「特定のイベントやアクティビティに興味があったから」についても、若干高い傾向。

Next 気軽なショートトリップを好む道民、今後道外への旅行や道内全体の観光活性化に寄与すると思われる北海道新幹線と空港民営化について、どう思っているのでしょうか。

4 北海道新幹線への期待と不安

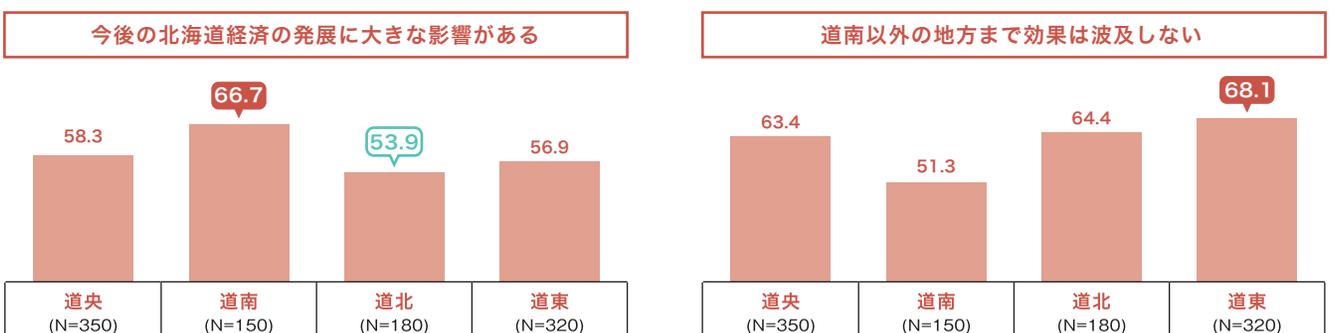
Q. あなたは北海道新幹線に対する以下の意見に対し、どのように思われますか。（そう思う+ややそう思うの合計）



経済発展や人口増加などには、道内よりも道外の方がポジティブな意見が高い傾向。道内からの視点では、飛行機よりコスト優位性がなく、札幌延伸まで効果が限定的と見ています。また、道内エリアでも道南以外の地方には波及してないのでは、という現実的な意識が高くなっています。

道内エリア別比較

Q. あなたは北海道新幹線に対する以下の意見に対し、どのように思われますか。（そう思う+ややそう思うの合計）



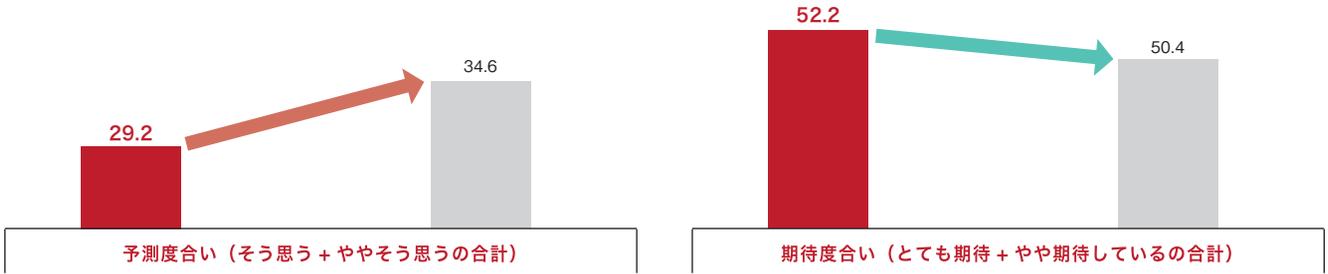
道内エリアで期待度が高いのは道南、道北は低い傾向。また、道南以外の地方に波及しないと考えているのは道東と広域での経済効果に疑問を抱いているようです。

5 空港民営化への期待度

Q. 北海道の空港が民営化されると、広い北海道の観光が全体的に活性化する



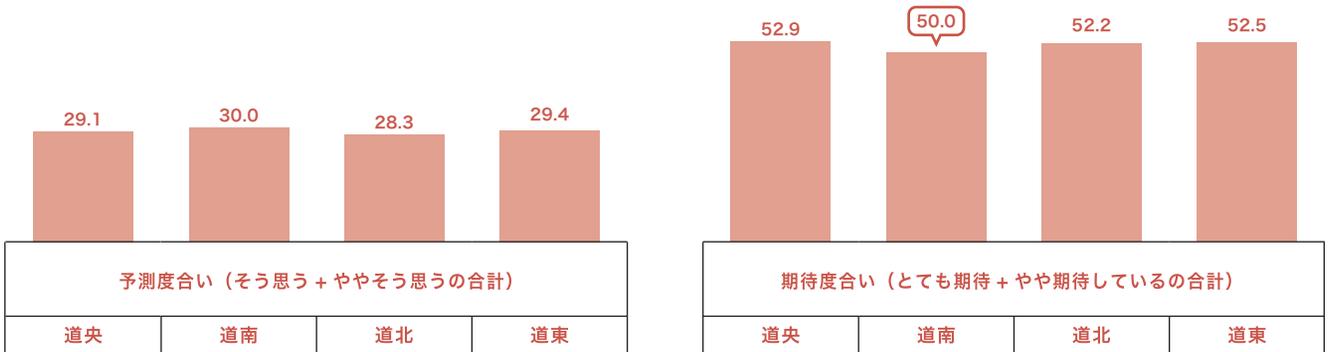
■ 道内 (N=1,000) ■ 道外 (N=500)



空港民営化についても、道内では道外より北海道全体の観光活性化につながると考えていない結果に。しかし、期待したいという気持ちでは道内が道外をわずかに上回っています。

道内エリア別比較

Q. 北海道内の空港が民営化されると、広い北海道の観光が全体的に活性化する



道内エリア別での予測度合いはあまり差がありませんが、期待度では道南がやや低い傾向が出ています。



調査目的：北海道の生活者意識を定量的に把握し、道内外や道内地域で比較することで、「新どさんこ」の潮流を見つけることを目的とした、新どさんこ研究所のオリジナル調査。

調査概要：ウェブ調査

調査期間：2016年11月

調査対象：道内外在住の男女18～69才

サンプル数：1,500 (道内エリアは人口構成比で割付)

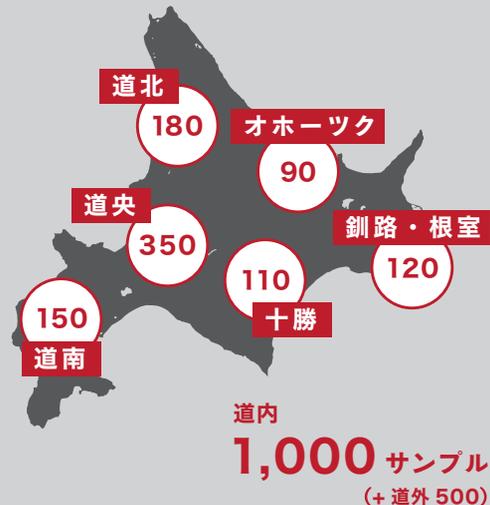
道内 1,000S / 道外 500S (割付は下表の通り。)

調査会社：東京サーベイ・リサーチ

道外	道内※
男性計 250	男性計 500
女性計 250	女性計 500
道外計 500	道内計 1,000

※道内割付

道央	350
道南	150
道北	180
道東	320
道内計	1,000



POINT

今回の発見の
ポイント

新どさんこは、旅行やレジャーには クルマで自ら動く“自走派”。 北海道新幹線や空港民営化への 機運醸成はこれから。

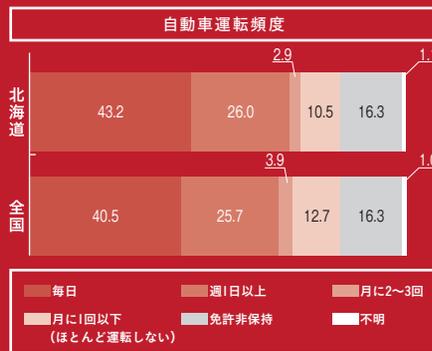
北海道新幹線は2030年の札幌延伸に向けて工事が進む中、期待と不安が入り混じりながら様子を見守っている道民の姿が見えました。但し、延伸効果は一時的には期待できても、道北や道東など全域への波及がどの程度かは未知数。道民はつとめて冷静なのでしょう。

また空港民営化については、こちらも道外からの期待が高い結果でした。新千歳空港がリードして、他の民営化された空港の活性化がなされるのか、見極めようとしているのかもしれません。

北海道は広く、交通インフラが旅行や移動のモチベーションに直結します。札幌への人口集中と道内のショートトリップ傾向は必ずしも無関係ではありません。道民の移動範囲が狭くなれば、経済圏を縮小させてしまうでしょう。また、高速道路の整備も道央だけで進めば、ますますその傾向が加速するはずだ。

一方で、コスト意識が高い道民なので、旅行やレジャーの移動手段に価格メリットの提示は有効と思われます。また、電車・バス・飛行機・クルマの最適な組み合わせを提案することも求められているのではないのでしょうか。

現時点では、道内旅行やレジャーの足はクルマが多いと思いますが、近年は自動運転技術も進化してきました。長距離かつ長時間の“自走派”の道民が、安全で楽であれば“自動派”にも転じやすいかもしれません。それは、意外に地方から進む可能性もあります。新ど研では、今後も注視していきたい研究テーマです。



出典：(株)ビテオリサーチ「2016年度全国新聞総合調査(J-READ)」



新ど研

北海道博報堂「新どさんこ研究所」(新ど研)とは？
生活者を取り巻く環境変化が加速していく中、北海道民も変わっていくという仮説のもと「一歩先の道民=新どさんこ」を生活者データ分析や未来予測から見出す専門組織です。



所長
山岸 浩之 Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。
コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、
北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。

【お問い合わせ先】

株式会社北海道博報堂
コミュニケーション戦略局
マーケティング部
新どさんこ研究所 広報担当：吉川
☎011-251-0178

【公式HP】

<http://shindoken.com/>

過去のレポートは
こちらから！

